

沖縄 たたかいの現場から

瀬長 和男
沖縄県統一連事務局長

110

宮城島から辺野古土砂搬出開始 与那国オスプレイ事故は「人的ミス」?



始まったうるま市宮城島からの土砂搬出

され、翌15日から飛行訓練と考えています。また、大浦湾での土砂陸揚げ場所がA護岸築造やN-1、N-2護岸工事の影響でK-8護岸だけでは使用できない状況を考えても、加速化できる条件はなく、なぜ宮城島から土砂採取を始めたのか理解できません。

宮城島からの土砂採取は、代執行訴訟の後、国交相によって承認された設計変更で追加された採取場所であり、設計変更では沖縄戦の激戦地だった沖縄本島南部からの土砂採取も含まれています。そのため、改めて戦争犠牲者の遺骨交じりの土砂の使用についても懸念が高まっています。戦没者の尊厳を守るため、全国からも抗議の声を挙げていただきますようお願いいたします。

＃

沖縄防衛局は11月20日、うるま市宮城島から辺野古新基地建設用土砂の搬出を開始しました。沖縄の地元2紙は「工事の加速化」と報道しています。しかし、安和・塩川の警備員とタンクがそのまま宮城島に移動しており、場所を変えただけで、採石場から港までの距離がかなり伸びた「人的ミス」だったと発表

11月20日には、沖縄県が主催するPFAS問題についてのシンポジウムもあり、有害物質および廃棄物に関する国連特別報告者マルコス・オレリャーナ氏が参加しました。オレリャーナ氏は某講演の中で、PFASなど「有害物質の暴露は人権侵害」であり、世界的に有害物質への規制や浄化の義務化が進んでいる状況を報告し、沖縄でPFASによる水質汚染の原因を調査する際に壁となっている日米地位協定について「国際基準に従うべきだ」と指摘しました。

やはり、米軍の特権を認める日米地位協定は改定すべきです。全国のPFAS問題解決のため、主催者として声を上げ続けましょう。

国連女性差別撤廃委員会 沖縄の性暴力で日本に勧告

スイス・ジュネーブで開催された国連の女性差別撤廃委員会は10月29日、日本の問題に関する「総括所見」に、沖縄での米兵犯罪に関する問題を盛り込みました。

総括所見では、「沖縄の女性と女子に対する性暴力および紛争に関連したその他の形態のジェンダーに基づく暴力を防止し、捜査し、訴追し、加害者を適切に処罰し、そのサバイバーに十分な被害回復を提供するための適切な措置をとる」と、また、「締約国の領土に影響を及ぼす平和構築の努力および二国間軍事協定の交渉のすべての段階において、女性の有意義かつ

人権蹂躪の歴史終わりに

平和大会での 里道昭美さんの報告



左から里道さん、平野さん、ナルバエスさん

国連女性差別撤廃委員会のロビー活動に参加した新日本婦人の会沖縄本部事務局長の里道昭美さんが11月16日の日本平和大会全体会で報告した内容を紹介します。

(要約・編集部)

国連女性差別撤廃委員会に、新婦人も参加するJNNCというネットワークの勧告を発表しましたが、その中で沖縄の米兵による性暴力問題が初めて明記されました。これは、沖縄からジュネーブの国連欧州本部に出向き、委員会に直接声を届けはたらきかけた成果です。そのひとりとして報告します。

10月14日から17日にかけておこなわれた女性差別撤廃条約に関する日本のとりくみの現状に関する審議

外間さんの声がなかったら思いもよらないことでした。同行するだけと思っていたら、せっかく行くならと様々なミッションが送られてきて大慌ての準備でした。

英文の沖縄レポートを持参するというので、原案となる原稿の沖縄の歴史を書きながら、戦後だけでなく沖縄は踏みこじられてきたのかと、胸の痛くなる作業でした。現地でも委員に英語で直接訴えるために短い英文を大特訓して臨みました。

委員の方々に新婦人のレポートと英文でつくった沖縄レポートを読んでもらいたいと次々と渡して回りまわりました。ほぼ全員に渡せたのかと思っています。サファ

包摂的な参加を確保すること」が盛り込まれました。これは、日本政府に対する勧告を含むものであり、政府の対応が求められるべきです。

この勧告を実現するうえで、ジュネーブ現地の委員会に対するロビーイングがおこなわれ、沖縄の代表、新日本婦人の会の代表が奮闘しました。

勧告につなげた
いと全力つくす

幸運にも、帰道、ナルバエス委員長にもレポートを渡すことができました。傍聴して感じたのは、国連の委員会に、私たちNGOの声と運動がしっかりと受け止められたということでした。

新基地もミサイル配備もノー 総選挙後の辺野古行動 安保行動参加者も参加



(上)11月2日の辺野古行動(右)ホワイトビーチの視察

安保破棄中央実行委員会
は、11月2日の辺野古での「県民大行動」への参加を中心に1日から3日まで沖縄行動をおこないました。

の保護が担当だから力になれないと断られました。粘って説明し受け取ってもらうことができました。

そして、あのサファロフ委員が、沖縄の米兵の性暴力の問題を質問してくださいました。沖縄は紛争地と変わりないと思ってくれたので、沖縄は紛争地と変わらぬという事実を明らかにすることができました。

現地に赴き、直接訴える、日本政府の勝手な言い分だけにさせない、NGOの怒りが伝わったと、勧告を見て感動しました。沖縄県民が渴望する、人権蹂躪の歴史を終わりにする。この実現に近づくとその始まりに、この勧告が寄与することを切に願います。

赤嶺議員が、辺野古新基地も先島へのミサイル配備も許さない決意を述べたのは、総選挙結果生まれた情勢のもと、「戦争する国づくり」を許さない決意が示されました。

安保中央の行動に参加した9人は、県民大行動の後で、ミサイル配備が進むうるま市の陸自分屯地やホワイトビーチ、嘉手納基地や普天間基地などを視察しました。

行動には沖縄県統一連の瀬長和男事務局長が同行し説明。1日夜には瀬長事務局長を講師に学習会をおこない、辺野古工事の現状などを学びました。

2日におこなわれた県民大行動では、10月の総選挙で「オール沖縄」で勝利した沖縄1区の赤嶺政賢さん、2区の新垣邦男さん、比例復活で当選した3区の屋良朝博さん、残念ながら及ばなかった4区の金城徹さん、参議院議員の伊波洋一さん、高良鉄美さんが勢ぞろい。

は初めてということでした。日米地位協定の異常さを世界の問題にし、日本政府が沖縄に何ら保護の手立てをとっていないという事実を明らかにすることができました。

在日米軍司令部、港区へ移転計画 新設の自衛隊統合司令部と連携?

に置かれている在日米軍司令部の東京都港区六本木の「麻布米軍ヘリポート(赤坂プレスセンター)」への移転計画を報道しました。今年7月におこなわれた日米安全保障協議委員会(2+2)において米側が、自衛隊と米軍の連携強化を進めるため、在日米軍を再編し「統合司令部」を新設する方針を表明しました。

自衛隊も、2022年12月に策定された「国家防衛戦略」および「防衛力整備計画」において、陸・海・空3自衛隊を一体的に指揮監督するため、新たに「統合司令部」を創設することを明記し、来年3月に創設する計画です。

「星条旗」は、「統合司令部」を米軍横田基地から「麻布米軍ヘリポート(赤坂プレスセンター)」への移転を検討している背景に、JJOCCが市ヶ谷(防衛省)に置かれることがあ

11月12日、米軍準備関係「星条旗」が米軍横田基地

米海軍掃海艇来るな

大阪港入港に抗議行動

11月7日から10日まで、米海軍の掃海艇パトリオットが大阪港に入港してきま

した。今年の2月には強襲揚陸艦アメリカが入港してきており、平和な国際貿易港に戦争のための



米掃海艇入港に抗議する人々(11月7日)



この報道に対し、中谷防衛相と小池都知事は「現時点で決まっているものではない」と記者会見で述べています。

「麻布米軍ヘリポート(赤坂ヘリポート)」は、米軍ヘリによる航空法を無視した低空飛行、離着陸による騒音や事故の危険など、周辺住民に大きな被害が生

軍艦が立て続けに来ることに大きな不安を感じます。大阪港は特定利用の港湾に指定されているわけでもなく、日米地位協定をひたつ根拠として大阪市は入港を許可していますが、今回もまた、「通常入港」として入港しています。

当り前のことのように民間の港が米軍艦に使用されることに憤りを感じます。先日強行された「キーン・ソード25」においても、日本全国が戦場となることを想定して、多くの民間港湾・空港が使用されています。

「日米同盟が日米の外交

が東京都心に移転されることになれば、有事には標的にされる危険性もあります。こうした不安や懸念に対し、防衛省の担当官は報道があったことは(日米ともに)認識を共通にしている「現時点で決まっているものではない」「相手側(米軍)の関係もあるので詳細な回答は差し控えています」といった不誠実な対応に終始しました。

麻布米軍ヘリ基地撤去実現委員会のメンバーから「地元からの返還要求は、地元からの返還要求の要望は米側に伝えて

危険な欠陥機

オスプレイ撤去を 東京・横田基地にむけ集会



横田基地にオスプレイはいらない11・24東京大集会

オスプレイ反対東京連絡会は11月24日、「横田基地にオスプレイはいらない11・24東京大集会」を横田基地のある東京都福生市の多摩川中央公園でおこない、600人が参加しました。

集会は、矢吹東京地評議長の主催者あいさつで開会し、日本共産党の吉良よし子参議院議員・伊地知恭子社民党東京都連幹事長が連

帯あいさつ。また6団体からの連帯スピーチもおこなわれ、その中で日本平和委

員会の千坂事務局長は、オスプレイ問題での防衛省交渉のやり取りを紹介し「飛行中止・撤去せよの声をあげていこう」と訴えました。

集会は「戦争司令部の横田基地は撤去しよう欠陥機オスプレイは飛行停止を平和憲法を生かし、対話の外交で、戦争しない平和な未来をつくらう」のスピーチを採択し、参加者



馬毛島の現状

馬毛島での工事等の進捗状況は、詳しい情報公開がないため、どうなっているのか、把握できていない。

防衛省が、9月10日に西之表市に来て、「基地本体は2023年1月着工、4年程度で完成する計画だったが、滑走路等飛行場施設の工程を約3年延長する。

飛行場関連施設や港湾整備も2〜4年遅れる」と伝えた。施設全体の完成時期は、2030年3月末になる見込み。FCLPも2028年1月以降になる。波や風で、重機等を運ぶ船が出せない日が多く、1

た。市は10月22日付で国の関係機関に対し、安全管理の徹底や再発防止策の報告等6項目を申入れている。市議会の馬毛島対策特別委員会(13人)は、23日に基地本体工事が始まってから初めて馬毛島を視察した。安全確保の観点から上陸許可が得られず、島東側海上からの視察を約1時間半行なっている。

西之表市から馬毛島を見ると、標高71mの岳の腰は削られてなくなっている。馬毛島のシンボルや戦争遺構のトーチカも撤去され完全になくなった。

魚種が豊富で漁師が宝の島と呼んでいたあの馬毛島は、緑地が少なくなり、すっかり茶色の大地に変わってしまった。残念でならない。

日本政府は、地元住民の声をどうして聞こうとしているのか。これが、民主国家のすることか。

馬毛島基地建設が始まった途端、市民生活に支障をきたす問題が起きた。種子島漁業協同組合が、好漁場であった横瀬の100haの漁業権を22億円で売却してしまっ。その海域は、アサヒカニ、トコブシ、イセエビ、ミズイカ等魚種が豊富な漁場だった。漁師が漁場に行かなくなったせいか、地元の旬の魚がスーパーから消え、大好きなお刺身が食べられない。

数戸の家族が借家から追い出されている。家賃高騰が続く、ホテルや民宿が満杯で、観光客やリピーターが宿泊予約に困っている。大型工事車両、レンタ

カーや作業員送迎バス等が増えて、交通渋滞が増えている。

馬毛島工事関係者がコンテナハウス、プレハブハウス、借家に住んでいるが、名前も分らず、自治会に入っていない。保護者から、防犯問題等不安の声があがっている。

馬毛島工事の作業員の増加で、診療を受ける待ち時間が長くなる等、医療状況も悪化している。

地元の農業、土木事業、福祉施設等の動き手が、馬毛島工事の作業員に転職し、地場産業の労働者不足で、介護施設やスタンドが閉鎖された。

行政当局もどこか処理や水道等の問題に、対応が迫られている。

今後のたたかい 私たちは、米軍空母艦載機の陸上離着陸訓練に、恒久的に使用させる馬毛島自衛隊基地建設には、これからもあきらめずに反対運動を続ける。

自衛隊馬毛島基地建設は、西之表市民だけの問題ではない。国民の命と日本の民主主義を守るのか、守れないのかの試金石であり、国民に判断してもらうべきものである。今後も、防衛省、環境省、国土交通省等との直接交渉を強化していく。環境保護、騒音、公害等の専門家を講師に学習会を開催する。また、基地問題を抱えてたかっている全国のみならず情報交換をしながら、戦争に繋がる基地建設に反対する運動を粘り強く進める。

陸自V-22航空事故の調査結果について

令和6年11月 防衛省

1 事故概要

- 令和6年10月27日(日)、第1ヘリコプター回輸送航空隊第108飛行隊のV-22が、与那国駐屯地において、日米共同統合演習(KS25)での患者後送訓練のために、11時38分頃、ホバリングに移行し、上昇のための前進を開始した際、操縦士が予期しない高度低下が発生したため、離陸を中止し、周辺の平地に接地
- 上記接地の直後に、再度航空機が上昇し、左右交互の揺れが発生したことで、左ナセルが地面に接触し、航空機は損壊
- 搭乗員16名全員(民間人なし)は負傷なし
- 当時の与那国駐屯地の気象は、晴天であり無風状態



V-22

2 事故調査要領等

- 陸上幕僚副長を長とする航空事故調査委員会を設置(令和6年10月27日付)
- 機体・構成品の破損状況の調査、フライトデータレコーダー(FDR)及びメンテナンスデータの解析、当該事故機の整備状況、関係者からの聞き取り等を実施

陸自V-22航空事故の調査結果について

3 事故原因(調査結果)

- 本調査の過程において、物的要因及び外的要因が本事故に関連がなく、FDR及びメンテナンスデータ等の分析から、**人的要因に起因する事故であること**を確認
- 細部の調査結果は、下記のとおり
 - ◆ ホバリング前に作動させるエンジン出力関連の機能を作動させなかったこと(直前に計画の変更等があった中において、インテリム・パワー・スイッチ※「ON」の失念)により、離陸に必要なエンジン出力の確保が困難な状況が生じて、上昇のための前進中に高度が低下したことで、離陸の中止及び離陸経路上の前方の障害物を回避し、平地への着陸を実施せざるを得ない状況が生じ
 - ◆ 航空機は、平地に一度接地したものの、その後の機長による地面付近での操作不良により、再度上昇するとともに、航空機の左右交互の揺れによる不安定状態が発生させることが生じ
 - ◆ これらのことが事故の原因であると特定

4 再発防止策

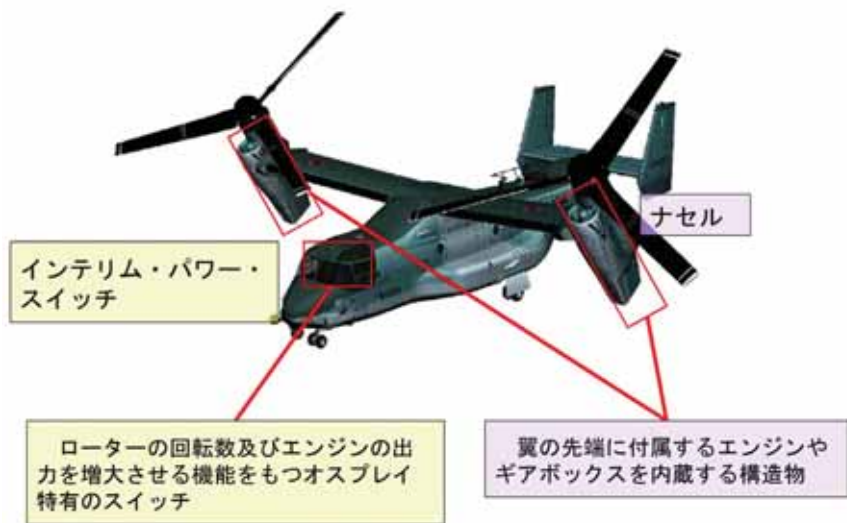
- 上昇のための前進中の高度低下(インテリム・パワー・スイッチ「ON」の失念)に対応するもの
 - ◆ インテリム・パワー・スイッチ「ON」の失念防止のためのマーキングを実施
 - ◆ 機長及び副操縦士によるホバリング移行前の操作手順の読み合わせに係る教育及び訓練の実施
 - ◆ 任務の実情に即した様々な状況下でのシミュレータを含む訓練の充実及び経験値の積み上げ
- 航空機の左右交互の揺れによる不安定状態(機長による操作不良)に対応するもの
 - ◆ 離陸中における出力低下時の緊急操作の徹底
 - ◆ 緊急対処要領を含めた状況的特質を踏まえた具体的な計画の策定
 - ◆ 計画策定段階からの指揮官による指導の実施

5 今後の予定

今般の事故調査結果を踏まえ、再発防止策を徹底し、陸自V-22の飛行を再開

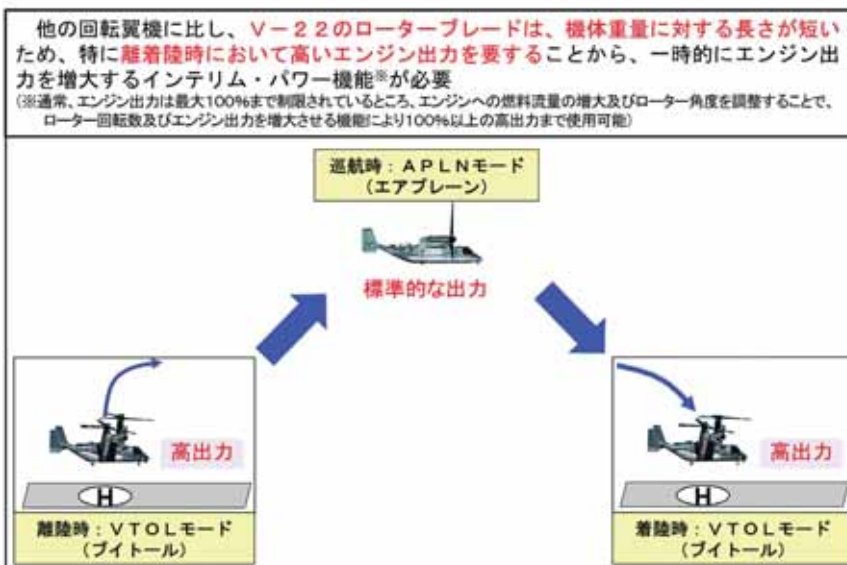
【補足説明資料①】

航空事故に関連する部位



【補足説明資料②】

インテリム・パワー機能について



与那国での陸自オスプレイ 損傷事故について考える

紙谷敏弘

10月27日、沖縄県与那国島の陸上自衛隊与那国駐屯地第1ヘリコプター回輸送航空隊第108飛行隊所属のV-22(91705号機)が機体の一部を損傷させる事故が起きました。負傷者や民間への被害がなかったものの、陸自オスプレイにとっては初めての大きなトラブルです。当該機は未だ駐屯地内に置かれ

「スイッチの押し忘れ?」

今回の事故が、オスプレイ特有のものであることが明記されています。防衛省が「ヒューマンエラー」として「押し忘れたスイッチ」は、インテリム・パワー・スイッチといわれるものです。説明資料にあるように、

「ローターの回転数及びエンジンの出力を増大させる機能をもつオスプレイ特有のもの」です。同スイッチは、離陸時並びに着陸時(ヘリモード)に一時的な出力(臨時出力)を発生させるためのもので、飛行速度が60ノット以上まで増加したり、ナセル角が70度以下の水平飛行に操作されると、自動的に切

事故の経過

YOUTUBEなどで公開されている事故発生時の動画を見る限り、パイロットは必死に態勢を立て直しの作業をおこなっており、事故の要因が本場に「スイッチの押し忘れ」なのか、疑問を抱かざるを得ません。事故の経緯については、説明資料に、別紙資料のよ

うに説明されています。事後の写真で、左右ナセルの角度が違ってることが確認できます。オスプレイは構造上、エンジン稼働時は、左右ナセルは同じ角度になります。それが違うのは、左ナセル損傷時によるものかもしれません。

オスプレイとは

オスプレイは、「急速侵襲」として、別紙資料のよ

「欠陥機」であり同時に「欠格機」

また、航空機は、開発した国内を飛行する場合

「欠陥機」であり同時に「欠格機」

左右のエンジンは逆回転させています。普通の固定翼のプロペラ機では、同じ

航空機の左右交互の揺れによる不安定な状態

<p>④ 右後輪接地時(右2°)</p> <p>右に傾いた状態で接地</p>	<p>⑤ 接地時(水平)</p> <p>全ての車輪が接地</p>	<p>⑥ 左傾転の兆候(左への傾き)</p> <p>着陸時の操作により左傾転への兆候が発生</p>
<p>機体姿勢</p>	<p>機体姿勢</p>	<p>機体姿勢</p>
<p>操縦等動作</p> <p>機体を水平にし安定させるため左に傾ける操作を実施</p> <p>着陸時の衝撃を局域させるため、エンジン出力は100%を保持</p>	<p>着陸後も左に傾ける操作継続</p> <p>接地後、エンジン出力を下げなければならないところ、エンジン出力100%を継続</p>	<p>傾転を防ぐため右に傾ける過大な修正操作を実施</p> <p>エンジン出力100%の継続</p>
<p>⑦ 浮揚しながら右傾転(右8°)</p> <p>修正操作により浮揚しつつ右に傾き不安定な状態が発生</p>	<p>⑧ 左傾転、ナセル接触(左24°)</p> <p>修正操作により大きく左に傾きナセルが地面に接触</p>	<p>⑨ 接地(水平)</p>
<p>機体姿勢</p>	<p>機体姿勢</p>	<p>機体姿勢</p>
<p>操縦等動作</p> <p>機体を制御するため左に傾ける過大な修正操作を実施</p> <p>エンジン出力100%の継続</p>	<p>機体を制御するため右に傾ける修正操作を実施</p> <p>エンジン出力100%の継続</p>	<p>機体を制御するため修正操作を継続</p> <p>接地のためエンジン出力を低下</p>

津市には説明されています。しかし、このことについても、オスプレイは飛行する